

第35回 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会 2018 年度夏期研修会

8月6日(月)～8月7日(火) の2日間 『今日の若者の中に見る「傷」と「希望」』を主題に『第35回 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会 2018年度夏期研修会』が京都ガーデンパレスホテルにて執り行われました。

ここで皆様にご紹介！

日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会加盟団体は全国に7法人あります。今回はそのうち5法人より68名が参加しました。

- ・社会福祉法人 バプテスト心身障がい児(者)を守る会 (福岡県・粕屋郡)
- ・社会福祉法人 しんもり福祉会 (大阪市・旭区)
- ・社会福祉法人 キリスト者奉仕会 (福岡県・大牟田市)
- ・社会福祉法人 相愛会 (宮崎県・都城市)

と、わが・社会福祉法人 バプテストめぐみ会(京都市・左京区)です。

毎年、様々なテーマで、各法人より職員が集い、研修し研鑽を積んでおります。開催地は順次持ち回りとなっており、35回目となる今回は『バプテストめぐみ会』が主となり、京都にて開催されました。九州から来てくださった皆さんの第一声が、そろって「京都は暑いですね！」から始まりました。そうですね平年に増して…いえいえ、数十年に一度の猛暑となっています。灼熱の京都によこそお越しいただきました。



久山療育園センター長・宮崎信義先生の開会礼拝に始まり、元同志社女子大学教授、そして現在西南学院大学教授の才藤千津子先生から『今日の若者の中に見る「傷」と「希望』』と題し、基調講演をいただきました。



キリスト教徒ではない職員がキリスト教施設でどのように働きを持てるのか？若い人たちが進みたくなる社会福祉とは？との言葉を投げかけられ、求めるものは何なのかを見つめなおす機会になりました。

その後、シンポジウムとして「実践報告」を兼ね

【高齢者福祉の立場から】

めぐみ会・栗田地域包括支援センター・堀田裕所長



【障がい者福祉の立場から】

キリスト者奉仕会・叶義文施設長



バプテスト心身障がい児(者)を守る会・

金子政彦地域療育部長



【児童福祉の立場から】

相愛会・高木かおる統括園長



上記4名からそれぞれの施設の説明・役割・目指すところを発表いただき、日々の職務について、わが身に置き換え共感し、又、感嘆し、これからの仕事へのヒントとして学びを深めました。

共に福祉に携わる職員同士、法人の垣根を越えて深く話し合い、懇親会も盛り上がりしました。各職場の紹介と、職員紹介を経て、最後は大ビンゴ大会！京都の名物が賞品です！素敵なお土産になったのではないのでしょうか。

＜バプテスト心身障がい児（者）を守る会＞



＜キリスト者奉仕会＞



<相愛会>



<しんもり福祉会>



<めぐみ会いずみ保育園>



<めぐみ会高齢者部門>



<ビンゴ大会>



翌7日(火)は、7:30よりめぐみ会理事である李牧師により、早天礼拝が行われました。

第35回 日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会 夏期研修



朝食をはさんで分団討議(グループディスカッション)へと移ります。5つのグループに分け、『福祉人材の確保・定着』などを議題に忌憚なく意見を述べ合い、管理職・現場の責任者としての自覚や方針を確認し合う場となりました。その後各分団より報告を行いました。



<グループディスカッション>



<発表>



自分たちが目指していくところは何なのか？設立の理念に沿うことの大切さと、それに基づく経営の確立を目指し、そしてすべての職員に何かしらの共感を持ってもらわなければなりません。たどり着いたのは『共に生き、いかなる時も寄り添うこと』と、そしてそれを実行するために必要な『すべてを包み込む愛』がなければならないということだったのではないのでしょうか。参加したそれぞれが、今回学んだことを深く心に刻み、新たに成長できた姿で、来年の研修を迎えることができるように研鑽を積んでいくことを誓いました。

最後に、バプテスト心身障がい児(者)を守る会理事長・山田雄次先生による閉会礼拝が行われ、上田正紀バプテストめぐみ会理事長のあいさつをもって閉会しました。



準備並びに進行を担当してくれたバプテストめぐみ会の法人事務局職員に対し、感謝するとともに、良き学びの場を与えて下さった法人に重ねて感謝いたします。



暑い日が続きます。皆様どうぞご自愛ください。そしてこのブログをご覧になった皆様のなかで、社会福祉に興味を持たれた方、ぜひ『バプテスト』の法人を訪れてください。私たちは、『共に生き・共に寄り添う』福祉を目指しております。 あなたと共に…。

